

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	カウンセリング(Counseling)	授業コード	E035351
担当教員名	高橋 淳一郎	科目ナンバリングコード	E31006
配当学年	2	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	ピアヘルパーの資格試験を受けたい学生は必ず履修してください。 産業カウンセラーの受験資格を目指す学生は必ず履修してください。		
受講心得	遅刻、無断外室、講義中の携帯電話の使用、おしゃべりなど他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。		
教科書	指定しない		
参考文献及び指定図書	よくわかる 心理臨床 皆藤章 編 ミネルヴァ書房 カウンセリングとは何か[理論編]・[実践編] 池田久剛 ナカニシヤ出版		
関連科目	心理学、発達心理学、臨床心理学、心理アセスメント、精神保健学		

授業の目的	カウンセリングと一口に言っても様々な手法が存在します。ここではカウンセリングの基礎としての来談者中心療法から自己表現を援助するもの、集団を援助するもの、そして言語を介さずにクライエントの心を理解する手法など、実際に体験しながら学んでいきます。この講義を通して実践的な対人援助の理論と基本的な技法を身につけてほしいと考えています。
授業の概要	主要なカウンセリングの技法について、主として講義によって学んでいきます。しかし、大人数の教室においても体験できるものについては演習も実施しながら学びを深めていきたいと考えています。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：オリエンテーション・カウンセリングとは そもそもカウンセリングとはどのようなものであって、何を狙っているのでしょうか。まずはじめの講義ではカウンセリングそのものの意味、カウンセリングと心理療法との違いについて考えていきます。	
第2週：カウンセリングの効用と限界 カウンセリングは必ずしも万能ではありません。カウンセリングや心理療法における効果にはどのようなことがあるのでしょうか。カウンセラーおよびクライエント各々の要因について考えていきます。また、カウンセリングの限界を知ったうえで、周辺領域とのつながりについて学んでいきます。	
第3週：来談者中心療法① いくつかのカウンセリング理論が存在しますが、ロジャーズの来談者中心療法はすべてのカウンセリングの基礎とも言われるものです。まずは来談者中心療法の背景理論ともいえる人間性心理学の考え方について触れていきます。そのうえで、来談者中心療法においてどのような人間観を持っているのか考えていきます。	
第4週：来談者中心療法② 前回は踏まえて、ロジャーズがカウンセリングを進めていく中でよりどころとした主要な理論である自己理論と人格変化の必要十分条件について学び、ロジャーズの捉えるカウンセリングの過程を理解していきます。	
第5週：来談者中心療法③ ロジャーズの基本的な考え方、姿勢を理解したうえで、実際に来談者中心療法としてどのようにカウンセリングを進めていくのか、その技法について解説していきます。さらに、ロジャーズ以降の来談者中心療法の発展についても触れていきます。	
第6週：精神分析療法 厳密にはカウンセリングと心理療法は別ものです。しかし、カウンセリングの基礎理論の背景には精神分析の考え方が非常に大切となります。ここではフロイトの精神分析療法を概説し、治療として使われる夢分析や自由連想法の技法を学びます。	
第7週：遊戯療法・箱庭療法	

<p>子どものカウンセリングの場合、子ども本来の姿としての「遊び」をカウンセリングとして用いることがあります。ここでは精神分析から派生した遊戯療法と、その現場でよく使われる箱庭を紹介します。時間があれば、箱庭の簡易版ともいべき風景構成法を体験してもらいます。</p>		
<p>第8週：芸術療法</p> <p>多くのカウンセリングは言語を介して行われますが、中には言語表出が難しかったり、言語表現が苦手なクライアントが少なからず存在します。芸術療法の多くは、そのようなクライアントに適応されるものです。ビデオ等も活用しながらいくつかの芸術療法を紹介し、時間があればコラージュを体験してもらいます。</p>		
<p>第9週：交流分析・ゲシュタルト療法</p> <p>前半は交流分析における自我状態の考え方を解説した上で、その分析・やりとり分析・ゲーム分析・脚本分析といった交流分析の治療方法について概説していきます。後半ではゲシュタルト療法の考え方を説明し、特にエンプティチエアの手法について必要に応じて映像も取り入れながら理解を進めていきます。</p>		
<p>第10週：行動療法</p> <p>精神分析と並んで心理療法の世界をリードしてきたものが行動療法です。ここではなぜ行動療法という考え方が生まれたのかということから、基本的な考え方である二つの条件づけと、それらが実践の中で使われる技法について解説していきます。</p>		
<p>第11週：認知行動療法</p> <p>現代のカウンセリング・心理療法の世界をリードしているのが認知行動療法です。この中には大きく認知療法と論理情動行動療法が存在しますが、その異同を含めて概説していきます。また、時間の許す限り基本的な手法について体験してもらいたいと思います。</p>		
<p>第12週：家族療法</p> <p>個人の抱える問題には、家族関係を背景としているものが少なくありません。ここではクライアント個人に注目するのではなく、クライアントとその家族を治療対象とした家族療法の考え方について触れていきます。主に家族システム論のこれまでの展開について解説します。</p>		
<p>第13週：育てるカウンセリング①</p> <p>特に学校臨床の現場では、これまでのような対処療法的な対応だけではなく、予防的な介入も求められるようになってきました。ここでは社会的学習理論に基づくソーシャルスキルトレーニングと行動療法に基づく対人関係ゲームの技法について説明していきます。</p>		
<p>第14週：育てるカウンセリング②</p> <p>前回に引き続き、予防・開発的なアプローチとしてのカウンセリング技法を紹介します。ここでは能力開発の場面でも使われるアサーショントレーニングと、グループエンカウンターの技法を説明します。</p>		
<p>第15週：ストレスマネジメント</p> <p>予防カウンセリングの一つとして最近注目されているのが、ストレスとうまく付き合っていく方法を学ぶことです。ここではその基本的な考え方を学び、体験してもらいます。</p>		
<p>第16週：期末試験</p> <p>これまでの内容について論述形式の試験を実施します。自筆ノートおよび講義内に配布したプリントは持ち込み可とし、試験時間は60分です。</p>		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①対人援助の基本的姿勢を身につけることができる。
【知識・理解】	②主要なカウンセリング理論についての説明ができる。
【技能・表現・コミュニケーション】	③理論を背景に対人援助の技法を取り入れることができる。
【思考・判断・創造】	④カウンセリングの効用と限界について理解できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		5点	20点	
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	30点	5点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	5点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	20点	5点		
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	毎回の講義の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容について点数化し、評価に加えます。評価方法は以下の通りです。 A 講義の内容をよく理解し、振り返りながら自分の考えをしっかりと述べている。 B 講義の内容をよく理解し、振り返ることができる。 C 講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができる。 D 講義の内容を一部理解し、振り返ることができる。
発表・その他(無形成果)	出席点を20点満点とし、1回の欠席ごとに2点を減点する方式で評価に取り入れます。